

江戸川区立瑞江第三中学校（1年目）

【校長】 山口 孝
 【生徒数】 459名
 【学級数】 13学級



次の取組へ

【課題・改善】

- (1) 運動・スポーツへの苦手意識を減少させるための工夫と一人1台端末を活用した授業改善による個別最適な学習の提供。
- (2) 一人1台端末を活用した継続的な生活改善週間の実施。
- (3) 生活改善週間の取組による、SNSやゲームの使用による睡眠不足の減少を目指す。
- (4) 外部人材を活用した(株)明治による「食育」授業、(株)西川による「眠育」の授業を実施し、健康な体づくりを目指す。

【実態・課題】

本校は運動部活動が盛んで、部員の生徒たちは意欲的に取り組んでいる。体力テストの結果は、体力合計点で東京都平均レベルである。一方で、SNSやゲームの一日当たりの使用時間が2時間以上の生徒が43%と多く、家庭学習時間が少なくなったり、就寝時間が遅くなったりする生徒が増加傾向である。学力不振への影響も大きく、不登校生徒のきっかけになることも多い。また、運動部に所属していない生徒の運動・スポーツへの関わりは薄く、苦手意識も強い傾向にある。そこで全生徒に健康で活力に満ちた生活をデザインできる資質、能力を育むことが課題である。

目標

- ・運動やスポーツをすることが好きな生徒の育成（90%）
- ・生活改善に取り組む生徒の育成（75%）

【成果】

- (1) 授業において、多くの生徒が苦手とする長距離走に「アスリートコース」「健康ダイエットコース」を生徒に提示し、選択して学習を展開したところ、「長距離走嫌い」な生徒も主体的に取り組むようになった。
マット運動授業時に一人1台端末を利用し、生徒同士で動画や写真を撮影することで、意欲的かつ安全に取り組むことができた。
- (2) 「生活改善週間」の実施とデジタル化に向けて事前事後のアンケートをFormsで行った。
- (3) スポーツクラブティップネスとの連携授業を2回行い、アンケートでは9割の生徒が「楽しかった」と肯定的な回答であった。
- (4) 校内研修において、全教員が教科等横断的な単元配列表（カリキュラムデザイン）の基盤づくりを行った。

【取組】

- (1) 技能向上に偏らず、運動・スポーツの楽しさや魅力を実感できることを目指した授業への改善。
- (2) 各学期2週間の「生活改善週間」の実施。
- (3) 地域のスポーツクラブと連携した授業の実施。
- (4) 健康的な生活習慣づくりに視点を置いた単元配列表の作成。

【取組（詳細）】

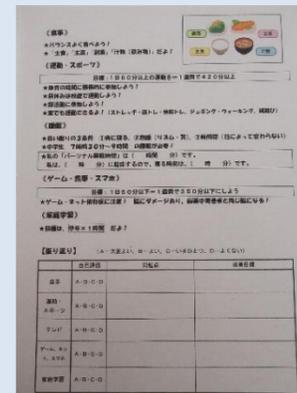
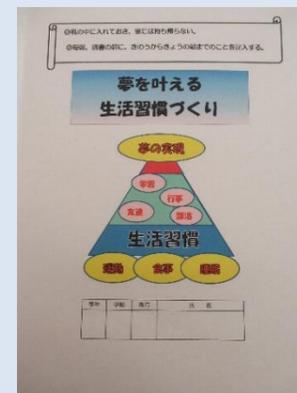
(1) 授業改善

一人1台端末を利用し、生徒同士で動画や写真を撮影し、互いの課題を見つけ、話し合い、意欲的に課題改善に努めた。また画像を見直すことで、安全面にも気を付けながら運動することに生徒自ら気付くことができた。

また保健の授業内では、「運動と健康」について端末を利用した調べ学習を行い、発表することを通し、学びを深めることができた。

(2) 「夢を叶える生活習慣づくり」

各学期に2週間の生活改善週間を設定し、食事や睡眠、運動のほか、スクリーンタイムを意識させ、より良い生活習慣づくりができるよう取り組ませた。またFormsによる事前事後アンケートをとった。来年度は経年変化を見ながら、生徒自ら改善方法を見つけられるよう、指導していく。



(3) 地域のスポーツクラブと連携した授業の実施

本校近隣にあるスポーツクラブ「ティップネス」の講師を招き、全学年対象に「体づくり運動」の授業を行った。今まで体験したことのない「ムーブ・ボディ・ファイト（ボクササイズ）」に挑戦した。その後に行ったアンケートでは、9割の生徒が「楽しかった。」と肯定的な回答をしたものの、家庭でも継続的に運動に取り組んだ生徒は半数以下だったため、運動に対する苦手意識を持たず、家庭でもやってみたい、と思える機会を提供することが課題である。

